

物事の変化の仕方はいつも同じではない。こんな変化の仕方もある。蕾ができて咲くまでの変化。蕾は外から見ると変化していない様だが、内部の変化が満ちるのか、あるいはあるきっかけを待っていて、ある時、フッと花開く。変化は必ずしもなめらかに少しずつ起こるわけではない。実際にはなめらかに少しずつ変化していても、多くの場合、それをそのまま私たちが把握できるわけではない。だから私たちは、ある時、ふっと変化に気が付く。私たちにとっては階段状に変化するわけである。受験勉強の場合でも、毎日少しずつ勉強していると身に付いて行く。気が向いた時にたくさん勉強しても覚えられない。一定の質を一定の量、重ねることで次の段階に行く。良い練習とはそういうものだろう。物事の習得もまた一つの変化である。

慢性病の治療の場合にも一定の質を持った治療を一定の頻度で重ねることが必

要である。そうすることで階段状に良くなって行く。急性的な腰痛や肩凝りが不思議に楽になるという場合とは違う。中には一回毎に「まだ良くならない」と焦っている患者がいる。焦りは治療に逆効果である。症状は一時的に悪くなることもある。

慢性病の治療の場合、だいたい週一回で三ヶ月続けるつもりで来てもらう。必ずしも三ヶ月かかるという意味ではなく、また必ずしも三ヶ月で治るという意味でもない。毎回治療の度に、良くなった良くならないなどと一喜一憂するのではなく、三ヶ月後に成果を確認する。その上で治療を続けるか判断すればいい。治療は毎回効いている。冷えていたお腹は温まり、硬くなっていたお腹や背は緩み、だらだらと弱く打っていた脈は元気になる。

自己治癒力が大きくなっている。その自己治癒力が慢性病を治して行く。一週間後、再び小さくなった自己治癒力を大きくする。その繰り返しの中で、自己治癒力は以前のように小さくならないからだに変化して行く。三ヶ月を待たずに治ってしまえば、それは幸いな事だが、治らないと言っても、三ヶ月前と同じからだというわけではない。

昼夜逆転症の患者を治療した。心療内科などで治療を受けても治らないと言う。眠れる時間帯が少しずつずれる。頭重など関係が深い症状の他に慢性症状もあった。三ヶ月経って、治療を中止したいと相談された。昼に起きていられることが多くなり、他の慢性症状も良くなっていた。説得し、もう三ヶ月続けることになった。

果たして、三ヶ月後には治り、その後、治療の頻度を減らして、終了した。

不妊症の患者を治療した。病院で

の不妊治療を受けたがうまく行かない。体調が悪く、月経がなくなって来ていた。治療を開始したが、最初の内は変化が少なかった。その後、血毒の排出などがあり、体調は回復して行った。四ヶ月目に入って、病院での不妊治療を再開したいと相談された。もう一ヶ月待つよう説得した。一ヶ月と少し経って、妊娠が報告された。安産治療に切り替えた。

即効に合わない物事にも即効が求められているのが現代社会である。病は鋭い対症療法薬の為に難病化している。熟成に必要な時間を待たず、添加物だらけのまがい物の食が一般化している。学校では子供のリズムに合わせられず、学ぶ喜びが失われようとしている。不合理な社会である。

(2007年9月白露)

体質の変化は階段状

